

平成27年2月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成26年10月9日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社ブロッコリー

コード番号 2706 URL <http://www.broccoli.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 森田 知治

問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員管理本部長 (氏名) 渡邊 朋浩

四半期報告書提出予定日 平成26年10月10日

TEL 03-5372-6322

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年2月期第2四半期の業績(平成26年3月1日～平成26年8月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年2月期第2四半期	3,084	△7.0	806	△25.3	805	△25.3	505	△48.6
26年2月期第2四半期	3,315	57.5	1,079	192.9	1,079	193.4	983	156.3

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年2月期第2四半期	15.45	—
26年2月期第2四半期	30.06	30.06

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%		
27年2月期第2四半期	4,649		3,589		77.2	
26年2月期	4,490		3,509		78.2	

(参考)自己資本 27年2月期第2四半期 3,589百万円 26年2月期 3,509百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
26年2月期	—	0.00	—	13.00	13.00
27年2月期	—	0.00	—	6.00	6.00
27年2月期(予想)	—	—	—	~7.50	~7.50

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年 2月期の業績予想(平成26年 3月 1日～平成27年 2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	6,400	△5.7	1,600	△25.6	1,600	△25.6	1,000	△47.6	30.55
	~7,000	~3.2	~2,000	~△7.0	~2,000	~△7.0	~1,200	~△37.1	~36.66

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年2月期2Q	32,738,211 株	26年2月期	32,738,211 株
② 期末自己株式数	27年2月期2Q	1,323 株	26年2月期	1,323 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	27年2月期2Q	32,736,888 株	26年2月期2Q	32,732,995 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続は実施中であります。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の実績等は、業績の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、[添付資料]4ページ「業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 四半期財務諸表	6
(1) 四半期貸借対照表	6
(2) 四半期損益計算書	7
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9
(重要な後発事象)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動により、個人消費など国内民間需要の一部に弱い動きも見られましたものの、政府の経済政策および日銀の金融緩和の効果を背景にして景気は穏やかな回復基調で推移いたしました。

当社が属するエンターテインメント業界におきましては、国内市場におけるスマートフォンの普及が一段と進む中、スマートフォンゲーム市場の拡大は、国内だけではなく世界規模で続いております。

当社は、かかる経営環境下において、更なる事業及び収益の拡大を図るために、①『うたの☆プリンスさまっ♪』の“ムーブメント化”への前進！ ②リアルグッズのNo.1メーカーへ！ ③『Z/X (ゼクス)』2nd Stage Yearへの挑戦！ ④プロモーション&セールスの強化 ⑤BCPを中心とした社員の安全と幸福の追求 の5点を今期の課題とし、「自社内にて開発するコンテンツのヒット創出及びハイリターンの追求」、「リアルグッズ製作での確実な収益確保」の2つを両立する事業戦略（ツインエンジン化）をより強固かつ安定的なものとするべく推進してまいりました。

このような状況下、当第2四半期累計期間の売上高は3,084百万円（前年同期比93.0%）、売上総利益率は47.1%（前年同期比4.7ポイントダウン）、売上総利益は1,453百万円（前年同期比84.6%）となりました。

この主な要因としましては、以下のとおりとなります。

ゲーム部門につきましては、『うたの☆プリンスさまっ♪All Star』『うたの☆プリンスさまっ♪Repeat』をはじめとした『うたの☆プリンスさまっ♪』関連作品のバックオーダーが、計画に対し好調に推移いたしました。また、平成26年4月から6月にかけて、当社ゲームソフト『神々の悪戯』を原作としたTVアニメ『神々の悪戯』が放映されましたことに伴い、同ゲームソフトのバックオーダーも好調に推移し、計画を上回ることができました。

CD部門につきましては、平成26年4月から7月にかけて発売いたしました『うたの☆プリンスさまっ♪アイドルソング』新シリーズ4作、及び8月に発売いたしました『うたの☆プリンスさまっ♪カルテットアイドルソング』が、全作品ともに、オリコン週間シングルランキングにてTOP10入りし、中でも『うたの☆プリンスさまっ♪カルテットアイドルソング』は、第3位にランクインしております。また、当社初の男性専属アーティスト蒼井翔太も8月6日に2ndシングル『TRUE HEARTS』を発売する等、順調な売上で推移いたしました。

カードゲーム部門につきましては、平成26年4月に第8弾『神祖の胎動』、7月に第9弾『覇者の覚醒』を発売いたしましたトレーディングカードゲーム『Z/X -Zillions of enemy X- (ゼクス ジリオンズ オブ エネミー エックス)：略称Z/X (ゼクス)』シリーズの売上が、順調に推移いたしました。

グッズ部門につきましては、当社女性向けコンテンツ『うたの☆プリンスさまっ♪』の関連グッズが大変好調であり、平成26年7月から原宿にて期間限定オープンしておりますコンセプトショップ『SHINING STORE (シャイニングストア)』でのグッズ販売も好調に推移しております。また、他社男性向けコンテンツの関連グッズもヒット作品に恵まれたこともあり、計画に対し大変好調に推移いたしました。

当第2四半期累計期間の売上高・売上総利益は、期初の計画に対しましては好調に推移しておりますが、当第2四半期累計期間においては新作ゲームの発売がなかったこと等、前年同期とのタイトル発売時期の相違もあり、前年同期比では、前第2四半期累計期間を下回っております。

販売費及び一般管理費につきましては、販売業務に関する費用の増加等により、647百万円（前年同期比101.5%）となりました。

この結果、営業利益は806百万円（前年同期比74.7%）、経常利益は805百万円（前年同期比74.7%）、四半期純利益は法人税等の増加等により505百万円（前年同期比51.4%）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(流動資産)

当第2四半期会計期間末における流動資産の残高は4,016百万円で、前事業年度末に比べ173百万円減少しております。現金及び預金の減少426百万円、売掛金の増加118百万円、商品及び製品の増加100百万円、仕掛品の増加50百万円が主な要因であります。

(固定資産)

当第2四半期会計期間末における固定資産の残高は633百万円で、前事業年度末に比べ332百万円増加しております。建設仮勘定の増加370百万円が主な要因であります。

(流動負債)

当第2四半期会計期間末における流動負債の残高は1,024百万円で、前事業年度末に比べ87百万円増加しております。買掛金の増加83百万円が主な要因であります。

(固定負債)

当第2四半期会計期間末における固定負債の残高は35百万円で、前事業年度末に比べ8百万円減少しております。リース債務の減少8百万円が主な要因であります。

(純資産)

当第2四半期会計期間末における純資産の残高は3,589百万円で、前事業年度末に比べ80百万円増加しております。これは、四半期純利益505百万円が計上された一方で、配当金の支払425百万円が行われたことが主な要因であります。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は前事業年度末と比べて526百万円減少し2,557百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは307百万円の資金の増加（前年同四半期累計期間は786百万円の資金の増加）となりました。その主な内訳は、売上債権の増加額118百万円、たな卸資産の増加額151百万円などのマイナス要因と、税引前四半期純利益805百万円、仕入債務の増加額83百万円などのプラス要因であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは405百万円の資金の減少（前年同四半期累計期間は12百万円の資金の減少）となりました。その主な内訳は、有形固定資産の取得による支出379百万円、無形固定資産の取得による支出14百万円、長期前払費用の取得による支出11百万円などのマイナス要因であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは428百万円の資金の減少（前年同四半期累計期間は198百万円の資金の減少）となりました。その主な内訳は、配当金の支払額420百万円、リース債務の返済による支出8百万円であります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成27年2月期につきましては、前述いたしました「今期の課題」5点を掲げ、「自社内にて開発するコンテンツのヒット創出及びハイリターンの追求」、「リアルグッズ製作での確実な収益確保」の2つを両立する事業戦略（ツインエンジン化）をより強固かつ安定的なものとするべく推進してまいります。

なお、売上高につきましては、+2.9%~4.9%の修正をいたしました。

通期業績予想及び配当予定につきましては、下記「※レンジ形式の業績予想及び配当予定について」に記載しております内容に基づき、サマリー情報記載のとおりレンジ形式での表示といたします。

※レンジ形式の業績予想及び配当予定について

「ツインエンジン」を事業戦略とする当社の売上構成は、

- A. マーチャндаイジング、マーケティングの手法が比較的通用し、努力度やPDCA等の成果が売上と利益に反映され易い、グッズ部門
- B. ユーザー評価は、その感性に委ねられ、まさに発売してみないと市場の反応が判別できないコンテンツ部門に大別されます。

更に、コンテンツ部門におきましては、売上の振れ幅に加えて、その販売数量により利益率が大きく上下します。

よって当社は、期初から第2四半期終了時までには売上・利益・配当ともにレンジ形式での予想数字として、期末に近づき数字の確実性の増す第3四半期終了時に、単独数字での発表を予定しております。ただし業績の進捗を踏まえ、上記の期日以前に合理的な算定が可能になった場合には、その時点で速やかに開示いたします。

※スマートフォン向けゲームアプリ『うた☆プリアイランド (iOS 版)』配信一時中断後の開発による当社通期業績への影響について

平成26年7月1日より一時中断し、同年12月下旬予定での再開に向けて開発を進めております当社スマートフォン向けゲームアプリ『うた☆プリアイランド (iOS 版)』の通期業績への影響は現在精査中ではありますが、数字の確実性の増す当社第3四半期累計期間及び第3四半期会計期間決算時の通期業績予想に反映し、開示する予定であります。

※本社の土地及び建物の固定資産の取得による当社通期業績への影響について

当社は、平成26年7月24日開催の取締役会において、本社の土地及び建物の取得を決議し、同日付で契約の締結を行い、平成26年10月2日付で当該資産を取得いたしました。本件の通期業績への影響は現在精査中ではありますが、数字の確実性の増す当社第3四半期累計期間及び第3四半期会計期間決算時の通期業績予想に反映し、開示する予定であります。

なお、業績見通し等の将来に関する記述は、当社が発表日及び現時点で入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づき作成しておりますが、業績等につきましては経営環境の変化やその他様々な要因により大きく異なる可能性がありますので、その場合には開示が可能となった時点で速やかに業績予想の修正を公表いたします。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期財務諸表
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年2月28日)	当第2四半期会計期間 (平成26年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,284,135	2,857,866
売掛金	677,453	796,202
商品及び製品	62,120	163,103
仕掛品	30,680	81,411
原材料及び貯蔵品	1,863	1,535
その他	133,131	116,004
流動資産合計	4,189,385	4,016,123
固定資産		
有形固定資産	32,811	405,346
無形固定資産	101,117	105,793
投資その他の資産		
その他	168,743	123,890
貸倒引当金	△2,000	△2,000
投資その他の資産合計	166,743	121,890
固定資産合計	300,672	633,030
資産合計	4,490,057	4,649,154
負債の部		
流動負債		
買掛金	226,505	309,879
未払法人税等	189,781	270,081
返品調整引当金	34,334	35,035
賞与引当金	25,973	70,798
役員賞与引当金	56,000	15,000
その他	404,018	323,511
流動負債合計	936,613	1,024,306
固定負債		
その他	43,895	35,137
固定負債合計	43,895	35,137
負債合計	980,508	1,059,443
純資産の部		
株主資本		
資本金	331,775	331,775
資本剰余金	37,127	37,127
利益剰余金	3,140,423	3,220,676
自己株式	△478	△478
株主資本合計	3,508,847	3,589,100
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	701	609
評価・換算差額等合計	701	609
純資産合計	3,509,549	3,589,710
負債純資産合計	4,490,057	4,649,154

(2) 四半期損益計算書

第2四半期累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年8月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年8月31日)
売上高	3,315,809	3,084,246
売上原価	1,598,348	1,630,693
売上総利益	1,717,460	1,453,552
販売費及び一般管理費	637,694	647,195
営業利益	1,079,765	806,357
営業外収益		
受取利息及び配当金	661	514
その他	272	121
営業外収益合計	934	636
営業外費用		
支払利息	1,071	944
その他	85	162
営業外費用合計	1,157	1,107
経常利益	1,079,542	805,886
特別損失		
固定資産除却損	2	0
特別損失合計	2	0
税引前四半期純利益	1,079,540	805,886
法人税等	95,656	300,053
四半期純利益	983,884	505,832

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年8月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	1,079,540	805,886
減価償却費	12,785	14,747
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△95	-
賞与引当金の増減額(△は減少)	90,045	44,824
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△9,844	△41,000
返品調整引当金の増減額(△は減少)	10,942	701
受取利息及び受取配当金	△661	△514
支払利息	1,071	944
固定資産除売却損益(△は益)	2	0
売上債権の増減額(△は増加)	△333,284	△118,749
たな卸資産の増減額(△は増加)	△146,886	△151,384
仕入債務の増減額(△は減少)	130,584	83,373
その他	△43,521	△152,242
小計	790,676	486,585
利息及び配当金の受取額	661	514
利息の支払額	△1,071	△944
法人税等の支払額	△3,885	△178,776
営業活動によるキャッシュ・フロー	786,382	307,379
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△200,000	△100,000
定期預金の払戻による収入	200,000	100,000
有形固定資産の取得による支出	△8,040	△379,236
無形固定資産の取得による支出	△1,511	△14,709
敷金及び保証金の差入による支出	△2,754	-
長期前払費用の取得による支出	△288	△11,073
その他	△375	△69
投資活動によるキャッシュ・フロー	△12,969	△405,089
財務活動によるキャッシュ・フロー		
株式の発行による収入	1,704	-
配当金の支払額	△193,155	△420,098
リース債務の返済による支出	△7,212	△8,460
財務活動によるキャッシュ・フロー	△198,663	△428,559
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	574,749	△526,268
現金及び現金同等物の期首残高	1,253,799	3,084,135
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,828,548	2,557,866

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

当社はエンターテイメント事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(重要な後発事象)

(重要な資産の取得)

当社は、平成26年7月24日開催の取締役会において本社用の土地及び建物の取得を決議し、同日付で売買契約を締結し、平成26年10月2日付にて下記のとおり取得いたしました。

1. 取得の理由

当社は、本社オフィスとして新練馬ビルの一部を賃借しておりましたが、定期借家契約が満了を迎えるのを契機に、立地の利便性や建物の堅牢性に優れた当該ビルを自社ビルとして取得するものであります。

2. 取得資産の内容

(1) 取得地	東京都練馬区豊玉北五丁目14番6号
(2) 取得資産	土地 1,089.30㎡ 建物 5,425.21㎡ (延床面積)
(3) 購入価格	1,800百万円
(4) 取得資金	自己資金